

【概要・目標】

【概要】

実習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで習得したがん看護専門看護師の役割開発，遂行する戦略や方策の実際をもとに，がん診療連携拠点病院でのがん看護専門看護師の機能と意義を理解し，「医療と介護の連携」、「在宅緩和ケア」等の現状とその課題を考察する。特に，シームレスな「病診連携」における，がん看護専門看護師の役割を実践しその効果を検証する。また，医療チームの一員として看護管理の視点を持ち，多職種が連携し患者とその家族に，最善の医療とケアが提供できることを視野に，がん看護専門看護師としての高度な知識・技術・態度を統合した看護を遂行する。

【目標】

- ① 和歌山県立医科大学附属病院の関連する機関・大学，市立貝塚病院等から有用な既存資料を収集しエビデンスに基づいた知識・技術を基盤とした思考をもって，がんに関する専門分野の知見を総合的に活用した戦略や方策を実践することができる。
- ② 患者とその患者を取り巻く，医療者や介護者との関係性を考慮し，携わる医療者の知識・技術の課題を明確にするとともに，医療者が自身の力で解決することができるように支援することができる。
- ③ 病診連携，医療と介護の連携及び推進にあたり，地域包括支援センターと協働し，在宅での緩和ケアに繋ぐための患者・家族の現状と課題を明確にした方策を思考し遂行できる。
- ④ 管理的視点を持ち組織の課題・問題を把握した情報を整理し，医療と介護の連携，在宅緩和ケア等の現状と課題を考察することができる。

【実習期間】

9月から12月における2週間（10日間）

【実習施設及び指導者】

和歌山県立医科大学附属病院地域連携室 有本幸恵 臨床教育講師／がん看護専門看護師
和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究所 山田 忍(がん看護専門看護師)

【授業内容・スケジュール】

① 基本的スタンス

実習指導者，病棟看護師長，担当教員(がん看護専門看護師)のスーパーバイズのもとで関連組織との調整，関係者との相談，教育などのプランを実施し，在宅緩和ケアの現状と課題を明らかにする。在宅に移行する患者・家族の権利と尊厳を守ることを優先する。在宅への移行支援に関しては，実習指導者のコーディネートに従う。

がん治療や看護，管理に関する研究やガイドライン等を活用し，エビデンスに基づいた最善の医療とケアが提供できるよう，高度な知識・技術・態度を統合した看護を遂行する。

② 日々の実習

実習指導者，よりスーパーバイズを受けながら実習を行う。必要時，指導教員に報告・連絡・相談する。

③ カンファレンス

第1週の終わりに中間カンファレンス、終了日に最終カンファレンスを開催し、実施した看護実践について討議し、実習指導者、病棟看護師長、指導教員の助言を得て、学びの課題・意義を明確にする。開催に際して、カンファレンス資料を関係者に配布し、終了後記録を作成する。実習指導者、病棟看護師長、指導教員からの助言をお願いする。

実習終了後1週間以内に、専門看護師と指導教員のスーパーバイズのもと総括カンファレンスを開催、実習の反省と各自の今後の課題を明確にする。

④ 実習中の記録

(ア) 日々の実習記録

実習記録には、①日々の実習目標、②参加あるいは実施した場面と考察および評価、③今後の課題を記録し、毎日、指導教員が指定した時間に提出する。

(イ) カンファレンス記録

中間および最終カンファレンスの内容（討議内容、助言・示唆等）をA4版2枚程度にまとめ提出する。

(ウ) 課題レポート

総括カンファレンスでのスーパーバイズをもとに、医療と介護の連携及び推進、在宅での緩和ケアに繋ぐための患者・家族の尊厳を重視した地域連携をテーマにしたレポート（A4用紙2枚）を作成して指導教員に提出する。

【評価】

①カンファレンスの参加態度（50%）

②日々の記録、カンファレンスの記録、課題（課題は実習要項に記載）レポート内容（30%）

③プレゼンテーションや討議への参加態度（20%）

【その他】

連絡先：yamada-s@wakayama-med.ac.jp（山田）